

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 霧丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問紙調査

##### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

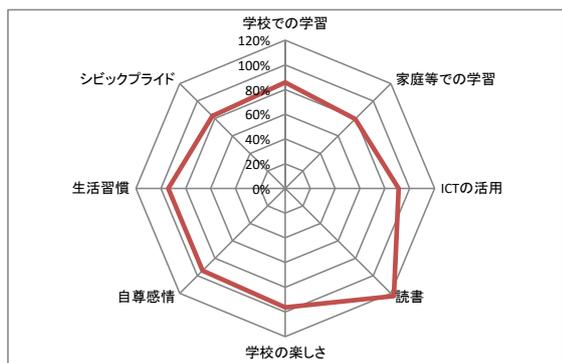
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方」に関する問題の正答率が高いのに対し、「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率は平均を下回っている。問題形式では、「選択式」「短答式」の問題の正答率が高いのに対し、「記述式」の問題の正答率が低く、書くことを苦手としている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかみる問題	
	努力が必要な問題	文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	数と計算」「変化と関係」に関する問題の正答率が高いのに対し、「図形」「データの活用」の正答率が平均を下回っている。問題形式では、「選択式」「短答式」の問題は正答率が高いのに対し、「記述式」の正答率は、平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかみる問題	
	努力が必要な問題	グラフを読み取り、見出した違いを言葉と数で記述できるかどうかみる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人の役に立つ人間になりたい」という問いに対して、95%の児童が肯定的に回答している。また、「友達関係に満足している」という問いに対しても、90%以上の児童が肯定的に回答している。</li> <li>・学校や家庭で読書をする習慣ができており、読書が好きな児童が多い。</li> <li>・家庭等での学習をしていると回答した割合が低かった。今後は、自分で計画を立てて学習することや、家庭学習時間の確保ができるように啓発していく。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- ・ きりぼうたいむ(学力向上タイム)や少人数学習を行い、基礎学力の向上に努めた。
- ・ 一単位時間の週末に自分の考えや学んだことをまとめる活動を位置付け、具体的に「何を」「どのように」表すのか目的を明確にする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 霧丘小学校「みんなのやくそく」を全家庭へ配布し、全職員共通理解のもと指導を行う。
- ・ 学校だより、学年・学級通信、学級懇談会等を通じて、家庭学習や生活習慣の大切さを継続的に伝えていく。